

特別シリーズII

科学技術
振興機構

『さくらサイエンスプラン』友情と感激

第17回

※現在、さくらサイエンスプランは新型コロナウイルスの感染防止のため、今年度のプログラムの実施を延期しています。

山口大学の活動報告



内野英治
(山口大学
創成科学研究科教授)

「山口大学理学部サイエンス・サマリー・プログラム2019」が8月21日〜30日の日程で開催され、5大学から総勢29名(台湾13名、中国11名、韓国5名)の学生を受け入れた。期間中、「さくらサイエンスプラン」交流事業より第1日目〜7日目を援助していただいた。

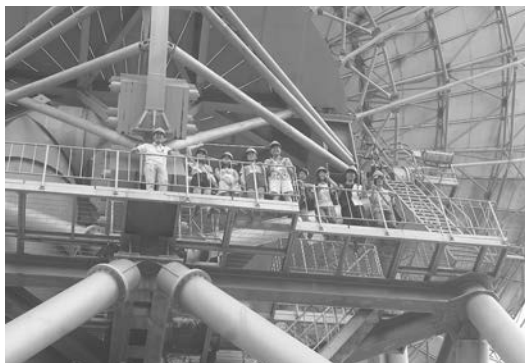
●本プログラムの目的と趣旨

本プログラムは、2016年度より毎年、本学部主催の学術国際交流プログラムとして開催している。参加者は、アジアの協定大学から招へいた優秀な青少年である。プログラムは、参加者が本学部の企画する講義および実習を受講し、同時に様々な交流行事に参加することで、将来の科学技術の発展を担う国際理解の素養を持つ人材として成長するよう組み立てられている。

具体的には、本学部がカバーする6分野(数理科学、物理学、情報科学、生物学、化

学、地球科学)の特徴的な講義および実習を受講、また、日本が世界に誇る秋吉台などの恵まれた自然や、萩・津和野・山口などの歴史や文化の体験、さらには地域の高校生との交流を通し、日本文化への理解と関心が深められるよう工夫されている。

また、将来的に本学部や本学の大学院(創成科学研究科(理学系))をはじめ、日本への留学を促すため、実際に最新の研究設備や技術を体験し、さらには、研究室の訪問や研究室の学生との交流などを通して、日本での研究生活を実感できる内容となっている。



山口大学管理の巨大な電波望遠鏡を見学



秋吉台の洞窟を体験

これまでも本プログラムへの参加を機に、本学の研究科に正式に留学した学生や、国内の他の大学に正規の留学をした学生など、本学の

プログラム	
1日目	日本到着、宿泊オリエンテーション
2日目	ガイダンス、学生による学内案内 歓迎会、研究室訪問
3日目	物理学分野講義、パラボラアンテナ、瑠璃光寺見学
4日目	萩オプションルツアー
5日目	フリータイム(学生交流・文化交流・地域交流)
6日目	生物学分野・地球科学分野講義 秋吉台にて野外実習
7日目	情報科学分野講義、化学分野講義
8日目	数理科学分野講義 グループディスカッション
9日目	プレゼンテーション、修了式、送別会
10日目	帰国

みならず日本の大学全体への関心を高め、正規の日本留学へと促す大きな効果を上げている。

● 2019実施報告

プログラム3日目に訪れたKDDI山口衛星通信所では、国立天文台が所有し本学が管理する電波望遠鏡(国立大学が管理する物としては国内最大級)による観測を実際に体験し、ブラックホールなどに関する最先端の宇宙観測研究をアクティブ・ラーニング形式で学習した。

また、萩市との包括連携協定の一環として、2018年から、萩ツアーがプログラムに盛り込まれており、今回も4日目に行い、山口県立萩高校の生徒がガイドとして参加学生たちを案内してくれた。萩八景遊覧船に乗り萩の歴史的景観を船から眺め、「萩ガラス」、「スイカ割り」、「折り紙」などの日本文化を体験、昼食には山口名物「瓦そば」を堪能し、学生は大変喜んでいった。

6日目に訪れた秋吉台では、日本最大のカルスト台地において、カルスト台地特有の生物生態系や地形を学ぶとともに、特別天然記念物に指定されている洞窟を探索し、洞窟に埋もれた動物化石等を観察した。Mine秋吉台ジオパークの紹介は、山口県立美祿青嶺高校の生徒が担当し、参加者たちは熱心に説明を聞いていた。

● 今回の成果および今後の展望

2016年度より、本プログラムを継続して毎年実施し、協定大学との関係を強化する中で、従来よりもさらに専門的な内容を提供

するよう参加大学から要望されるようになってきた。そこで今回、その要望に応えるため、従来の計画に加え、各研究室との交流機会を新たに設けた。留学生が訪問したい研究室を事前にアンケート調査し、希望の研究室と直接交流できる機会を組み込んだ。

参加者は、本学部在学生在に案内してもらい、それぞれが希望する研究室を訪問し交流を深めた。初の試みではあったが、意思疎通に問題はなく、参加者と研究室の教員および学生は、積極的に意見交換を行い、無事に専門分野の研究室交流を始動させることができた。

今後は、今回の研究室交流をより発展させ、参加者が希望する研究室ゼミに参加する計画を組み入れ、本学の研究を実際に体験してもらうプログラムに変更していく予定である。これにより、本研究科への進学を促す効果がさらに増し、国際共同研究の実現へと発展することも期待している。

本学部在学生在は、本プログラムのボランティア・スタッフとして毎年活躍しており、今回も大きな貢献をした。参加者の滞在中、講義・実習および生活全般のサポートをきめ細かく親身になって行い、参加者から大変感謝された。在学生も参加者とともに、本プログラムによる国際交流を通して、国際感覚を養い、また、語学力を向上させ、グローバル社会で活躍しうる人材へと確実に成長している。今後も本交流プログラムの精神を受け継ぐとともに、2020年以降は、従来の交流プログラムに加え、専門分野の研究交流を一段と推進する取組を強化していきたい。また、将来的にはアジアの枠を超え、世界の大学との共同研究へ向けた体制強化を行い、科学技術イノベーションに貢献しうる人材の育成を行ってみたいと願っている。

● 最後に

今回で第4回目の開催となる「サイエンス・サマリー・プログラム」も、関係各位のお陰で、無事成功裏に終了することができ、また、今回は、「新たに」「さら」「サイエンスプラン」事業よりご支援を賜り、本学部の学術国際交流をさらに推進することもできた。

この紙面をお借りし、本プログラムに関係された皆様方に心より感謝申し上げますとともに、引き続きご支援ご協力のほどよろしくお願い申し上げます。



研究室訪問、講義、実験の様子



ファイナル・プレゼンテーション後に記念の一枚